

本年は光受寺の新たな歴史が刻まれる年でもある。4月28日(日)親鸞聖人の御遠忌法要を、また山門新築、唐破風新築、本堂改修工事に伴う落慶法要をお勤めすることになっている。本堂の周囲に張り巡らす五色幕に、親鸞聖人7百回忌御遠忌と白く染め抜いてあることに改めて気づいたが、もう五十年という歳月が流れたことになる。もうずいぶんと色あせ、ほつれの目立つ幕を見つめながら、前住職がお勤めさせていただいた心に思いを致す時、厳しく胸に迫りくるものがあった。

今幸いにも皆様と共に、その時を迎えられたこのありがたさ、共に慶び、共に精いっぱい的心を、荘厳させていただきたいものだと思えばかりである。

新年の「あいさつ」さらなる輪の広がりを願ってー

責任役員 Y・T

新年あけましておめでとうございます。

昨年は本堂改修に伴う工事に、多大なるご支援をいただきました。お蔭をもちまして、ほぼ完成することができました。

堂内も見違えるように美しくなり、耐震強度も格段に向上したようで、安心してお参りができるようになりしました。「門徒の皆さんのご協力の賜ものと心より喜んでおります。厚く御礼申し上げます。

さて本年は宗祖親鸞聖人の七百五十回忌御遠忌法要を四月二十八日(日)に勤修いたしますこととなっております。また改築完成に伴う落慶法要も併せて計画をいたしております。その準備につきましても、いよいよ本格的になってまいりました。「門徒各位のご協力をいただきながら進めてまいりたいと思っておりますが、五十年に一度のこの一大行事に、一人一役の思いを以ってご協力をいただきますことをより一層お願い申し上げます。

今後住職、総代共に光受寺が「寺」「門徒」そして「地域」の方々の心よりご協力として、その輪がさらに広がっていくよう精いっぱい努めてまいりたいと思っております。皆様方のさらなるご支援、ご協力がいただけますことを、重ねてお願い申し上げます。最後にありますが、皆様方のお幸せを心より願ひ、新年のあいさつとさせていただきます。

報恩講

十二月九日(日)
午後三時より



光受寺合唱団 16名の歌声が
さわやかに
厳かに本堂に響く



報恩講当日、門信徒総会の前に、御遠忌で披露する仏教賛歌を、光受寺合唱団に披露していただきました。

お経とは違った味わいがあったか、みなさん興味を持って拝聴していただいていたように思えました。

方法手段は異なっても心は同じ。さわやかに、厳かに仏様の心を伝えていただきました。

今日は先生の指導なしでしたので、テープを流しての発表でした。
皆さんもぜひご参加ください。

佛心 入方 〇s

兜陰天のごとしとは申しますが、主人が世界してから年月が走馬灯のように過ぎ去ってしまいました。

振り返る目を閉じてみると思えてくるうちに頭に浮かんできたのは、以前セミミックスの板に「佛心 一人来て二人で帰る嬉しさよ弥陀の念佛道しれに」という額を、2か月かけて彫刻刀で掘ったことです。

佛心

一人来たりて
二人でかへる
嬉しさよ
弥陀の
念佛
道しれに
して

私の心の中にはいつも仏様が見守り、私と共に住んで見えるように思えるのです。
一日一日をいっしょに見守りながら生きていきたいと思います。

間もなく具体化される御遠忌法要の内容

一月の役員会

現段階で決定していることは、御遠忌のテーマ、期日、稚児行列の実施、募集稚児人数、稚児宿、ご招待する法中、寺院、法要を取り仕切って下さる式事の方、お抹茶を立ててくださる方等です。
門信徒の方にお手伝いいただく各係りについては、役員会で具体的に詰めていくつもりです。ただ前年度（二十四年度）本年度（二十五年度）の各役員様には主としてお齋の準備等でお手伝いをお願いするつもりです。よろしく協力いただきますようお願いいたします。
また、その他多くの係りが必要となつてまいりますので、お願いに上がりましたら快くお引き受けいただきますことを切にお願いを申し上げます。
決定いたしましたら、通信等でご報告させていただきます。全員の参加を基本的な運営方針としたことと思っておりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。



境内の飛龍梅も、すっかりと葉を落し、しなやかなその枝は寒風に揺れています。
しかしよく見てみると、しっかりとした花芽が春の来るのをただひたすらに待ちわびているように思えます。



25年度 一緒に学びませんか 御文章 (ひびき)

昨年度までは正信偈を中心の学びを続けてまいりましたが、今年度からは「お文さん」を通しての学びを続けて行こうかと考えています。
「お文さん」は八代蓮如上人の全国のご門徒に出されたお手紙ですが、仏教が身近に感じられ真宗を学ぶには良い導きとなるのではと考えています。
ところで私たちは仏教を理解しようと思いますが、特別な知識や能力が必要だとは思いません。むしろ薄っぺらな知識などは邪魔なくらいだと思います。
まずいっしょにものを見る目とつか、見える目を持つことだと思っております。妙好人と言われる無学文盲の人たちを尋ねてみると、それがよくわかります。